

地区クラブ代表者 各位

前橋市バドミントン協会
クラブ指導部

地区クラブ対抗試合の試合球に関するアンケート調査について

今年度の地区クラブ対抗試合は、試合球を『水鳥球』に変え試行大会として実施したものでそのデータを集計分析した結果、別添のとおり資料がまとまりました。

については、令和7年度以降の運営方針を検討する資料としたいので、地区クラブの意見をお聞かせ頂きたく下記の通り、アンケートを作成しました。

アンケート調査票【該当するものを○で囲むか意見等を書いてください。】

1 今後の地区クラブ対抗試合の試合球は、何が良いと思いますか？

※下記の中から1つ選び○で囲んでください。

ア:水鳥球 イ:合成球 ウ:どちらでも良い エ:その他

【エ:その他を選んだ者は具体的内容を書いてください。】

1でアとお答えいただいた者にお聞きします。

2 試合球を「水鳥球」にした場合、現在の参加料では大会運営が困難なので、どのようにしたら良いと思いますか？ ※どちらか一つだけ選んで○で囲んでください。

ア:参加料の値上げ イ:シャトルの持ち寄り ウ:その他

【ウ:その他を選んだ者は具体的な内容を書いてください。】

3 その他、ご意見等がありましたら書いてください。

※地区クラブ名及び記入者氏名 ⇒

クラブ:記入者氏名

このアンケートは、令和7年1月 日までに事務局へ提出願います。ご協力ありがとうございました。

地区クラブ対抗試合での合成球と水鳥球の比較結果について

令和6年度の地区クラブ対抗試合を水鳥球で実施するに当たって、令和5年度の市民(D個人戦)大会での水鳥球消耗率(使用頻度)を規準にし予算を立てました。

また、合成球の消耗率(使用頻度)については過去7年間13大会の地区クラブ対抗試合での平均値を計算しました。

次に令和6年度に試行実施した、地区クラブ対抗試合2大会での水鳥球の消耗率(使用頻度)の平均値を計算しました。

上記の消耗率(使用頻度)を数値化して比較したものが下表となります。

大会名等	市民(D個人戦)大会実績 令和5年12月30日開催	地区クラブ対抗試合の過去 7年間13大会の平均値	令和6年度地区クラブ対抗試合 春秋2大会の平均値
使用シャトル	水鳥球	合成球	水鳥球
1ゲーム 当りの シャトル 使用数値 (使用球÷ 総ゲーム数)	1.03個/1ゲーム当り (192個÷187ゲーム)	0.35個/1ゲーム当り (275個÷792ゲーム)	0.54個/1ゲーム当り (390個÷717ゲーム)

当初の想定では、市民(D個人戦)大会での水鳥球消耗率(使用頻度)と今回の試行大会の消耗率(使用頻度)が同程度になるのではないかと考えていましたが、結果は想定を大きく下回り、試行大会の消耗率が過去の合成球使用大会での平均消耗率の1.54(0.54個÷0.35個) **倍**程度に納まりました。

また、想定を大きく下回った要因を考えて見ると次のようなことが上げられます。

⇒ 資料2へ続く

当初の想定より水鳥球の消耗率が低く抑えられた理由として考えられること

- ①地区クラブ対抗試合は、15ポイント3ゲームマッチで延長無しであったこと。
- ②個人戦の場合は試合ごとにニューシャトルを2個ずつ渡すが、団体戦では各リーグに1ダース単位で渡し、そのシャトルは各リーグのテーブルで適正に管理されシャトル交換時は1ダースの大半が消耗した時点で試合進行に支障をきたさない範囲でダース交換していたこと。
- ③本部でも戻ってきたシャトルをチェックしながら適正な管理を行っていたこと。
- ④②・③による二重チェック体制を実施できていたこと。

以上①～④のとおり、ポイント制限やシャトルのチェック管理体制が実施されたことで当初の想定よりも低いシャトル消費率が達成できたものと思われます。

なお、別件ですが水鳥球が令和6年9月付けで値上げが有りまして、今回使用したシャトル（エアロセンサ500とエアロセンサクリア1）は1打当たり4,000円に値上げされています。

以上の結果を踏まえ、地区クラブ対抗試合を水鳥球で実施するには、参加料の値上げがシャトルの持ち寄りが必要になります。

参加料値上げの場合は、2,000円～3,000円程度になるかと思われます。

この結果を次年度に繋げるためアンケートを作成しましたので回答をよろしくお願い致します。